

ふりがな ふるさわ たいじ

氏名 古沢 泰治

## 1. 学歴

---

1987年 3月 一橋大学経済学部卒業  
1987年 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学  
1989年 3月 一橋大学大学院経済学研究科経済学修士号取得  
1989年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程入学  
1989年 9月 University of Wisconsin-Madison(Economics)入学  
1994年 8月 University of Wisconsin-Madison(Economics)修了  
1994年 8月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程退学  
1994年 8月 経済学 Ph. D.(University of Wisconsin-Madison)取得

## 2. 職歴・研究歴

---

1994年 9月 Brandeis University(Economics)にて lecturer  
1995年 6月 福島大学経済学部助教授  
1997年 10月 横浜国立大学経済学部助教授  
2001年 8月 Department of Economics, Boston University, フルブライト研究員(2002年7月まで)  
2003年 4月 一橋大学大学院経済学研究科助教授  
2005年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授

## 3. 学内教育活動

---

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

経済学入門, 国際経済学

#### (b) 大学院

国際経済学 I, 国際経済学 II

### B. ゼミナール

学部後期, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義は経済学全般・国際経済学の基礎理論を習得してもらうことを第1の目標としている。学部ゼミにおいては、国際経済学の基礎理論を勉強するのはもちろんであるが、それを応用する力もつくよう指導している。具体的には、グループ研究を行いその成果をインターゼミナールの場で発表するようにしている。もちろん、個人で書き上げる卒業論文もその主旨にあっている。大学院の講義は、研究者をめざすにあたって重要な基礎理論を習得してもらうとともに、最先端の研究も紹介するようにしている。大学院ゼミは、一人ひとりが自ら学術論文が書けるように各自の研究テーマに沿った指導を行っている。

## 4. 主な研究テーマ

国際貿易理論, 応用ゲーム理論

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

石川城太・古沢泰治編著『国際貿易理論の展開』, 文眞堂, 2005年。

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

- \* 「国際資本移動と貿易政策: 不完全特化ケース」『一橋論叢』105(6), 787–804頁, 1991年。
- “The Rubinstein Bargaining Model with Stochastic Disagreement Payoffs,” 『商学論集』第64巻第4号, 13–22頁, 1996年。
- 「ダンピング規制と暗黙の共謀」(清野一治氏と共著)『三田学会雑誌』第90巻第2号, 115–134頁, 1997年。
- \* “The Negotiation of Sustainable Tariffs,” *Journal of International Economics*, 48, pp. 321–346, 1999.
- \* “Adjustment Costs and Gradual Trade Liberalization,” (with Edwin Lai), *Journal of International Economics*, 49, pp. 333–361, 1999.
- \* “The Optimal Penal Code vs. Infinite Nash Reversion in Trade Liberalization,” *Review of International Economics*, 7, pp. 673–681, 1999.
- \* “Strategic Delegation and Delay in Negotiations over the Bargaining Agenda,” (with Michael Conlin), *Journal of Labor Economics*, 18, pp. 55–73, 2000.
- \* “Flexibility of disagreement actions in negotiations,” (with Quan Wen), *International Journal of Game Theory*, 30, pp. 19–39, 2001.
- 「GATT/WTOの経済理論」大山道広(編)『国際経済理論の地平』第21章, 東洋経済新報社, 323–337頁, 2001年。
- \* “Disagreement Points in Trade Negotiations,” (with Quan Wen), *Journal of International Economics*, 57, pp. 133–150, 2002.
- “Preferential Trade Arrangements vs. Open Regionalism: A Theoretical Analysis of APEC,” in Robert Stern, ed., *Issues and Options for U.S.–Japan Trade Policies*, University of Michigan Press, Ann Arbor, pp. 253–267, 2002.
- 「不公正貿易と一方的措置」池間誠・大山道広(編著)『国際日本経済論: 依存自立をめざして』文眞堂, 169–186頁, 2002年。
- \* “Bargaining with Stochastic Disagreement Payoffs,” (with Quan Wen), *International Journal of Game Theory*, 31, pp. 571–591, 2002.
- \* “What Information is Needed for Welfare-Enhancing Policies under International Oligopoly?” (with Keisaku Higashida and Jota Ishikawa), *Japan and the World Economy*, 15, pp. 31–46, 2003.
- \* “A welfare Decomposition in Quasi-Linear Economies,” (with Hideo Konishi), *Economics Letters*, 85, pp. 29–34, 2004.
- \* “Tariffs versus Quotas in the Presence of Imperfect Competition and Cross-Border Externalities,” (with Keisaku Higashida and Jota Ishikawa), *Canadian Journal of Economics*, 37, pp. 445–458, 2004.
- \* “Free Trade Networks with Transfers,” (with Hideo Konishi), *Japanese Economic Review*, 56, pp. 144–164, 2005.
- \* “Tariff Revenue Competition in a Free Trade Area: The Case of Asymmetric Large Countries,” (with Nato Jinji), *Review of Economic Development*, 11 (2), pp. 300–312, 2007.

- \* "Free Trade Networks," (with Hideo Konishi), *Journal of International Economics*, 72 (2), pp. 310–335, 2007.
- \* "Gradual Cooperation in the Existence of Outside Options," (with Toshikazu Kawakami), *Journal of Economic Behavior and Organization*, 68, pp. 378–389, 2008.

#### (d) その他

- 「自由貿易協定ネットワーク」(小西秀男氏との共著)『経済セミナー』No. 593, 6月号, 日本評論社, 63–67頁, 2004年。
- 「FTAドミノ効果の政治経済学」『経済セミナー増刊:ゲーム理論プラス』日本評論社, 102–105頁, 2007年。
- 「新」新貿易理論」『世界経済評論』世界経済研究協会, 51(8), 8月, 2007年。

### B. 最近の研究活動

#### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

- "Threats and Promises in Tariff Settings," Far Eastern Meeting of the Econometric Society, ソウル, 2004年7月。
- "Free Trade Networks," Public Economic Theory meeting, 北京, 2004年8月。
- "WTO as Moral Support," European Trade Study Group meeting, Nottingham, 2004年9月。
- "Policy Implementation under Endogenous Time Inconsistency," European Trade Study Group meeting, Dublin, 2005年9月。
- "Tariff Revenue Competition in a Free Trade Area: The Case of Asymmetric Large countries," University of New South Wales, 2006年8月。
- "A Factor-Endowment Theory of Firm Heterogeneity," Asia Pacific Trade Seminars, 上海, 2007年7月。
- "Firm Heterogeneity, Technology Utilization, and International Fragmentation," Far Eastern Meeting of the Econometric Society, 台北, 2007年7月。
- "Firm Heterogeneity, Technology Utilization, and International Fragmentation," European Trade Study Group 9th Annual Conference, Athens, 2007年9月。
- "A Factor-Endowment Theory of Firm Heterogeneity," National University of Singapore, 2007年11月。
- "Firm Heterogeneity, Technology Utilization, and International Fragmentation," Asia Pacific Trade Seminar, University of Sydney, July 14–15, 2008.
- "A Factor-Proportions Theory of Endogenous Firm Heterogeneity," Far Eastern and South Asian Meeting of the Econometric Society, Singapore Management University, July 16–18, 2008.
- \* "Financial Imperfection, Firm Heterogeneity, and International Trade," 日本国際経済学会第67回全国大会共通論題(兵庫県立大学), 2008年10月11日。

#### (b) 国内研究プロジェクト

- 「ゲーム理論のフロンティア:理論と応用」科学研究費補助金(基盤研究S)2008年, 研究分担者(研究代表者:岡田章・一橋大学)。
- 「紛争と協調の学際的研究—国際関係学と経済学の融合を目指して」科学研究費補助金(基盤研究B)2008–2010年度, 研究分担者(研究代表者:鈴木基史・京都大学)。
- 「非経済的価値の国際的相違・対立と新しい貿易体制の構築に関する研究」科学研究費補助金(基盤研究B)2008年度, 研究分担者(研究代表者:阿部顕三)。

#### (d) 研究集会オーガナイズ

Asia Pacific Trade Seminars (APTS), 2005 年 7 月 30 日- 31 日, 一橋大学。

Asia Pacific Trade Seminars (APTS), 2006 年 7 月 15 日- 16 日, 神戸大学。

Asia Pacific Trade Seminars (APTS), 2007 年 7 月 7 日- 8 日, Shanghai University of Finance and Economics.

Asia Pacific Trade Seminars (APTS), 2008 年 7 月 14 日- 15 日, University of Sydney.

Hitotsubashi Conference on International Trade and FDI 2004, 2004 年 10 月 1 日-3 日, 一橋大学。

Hitotsubashi COE/RES Conference on International Trade and FDI 2006, 2006 年 12 月 13 日-14 日, 一橋大学。

Hitotsubashi COE/RES Conference on International Trade and FDI 2007, 2007 年 12 月 15 日-16 日, 一橋大学。

Hitotsubashi COE Conference on International Trade and FDI 2008, 2008 年 12 月 13 日-14 日, 一橋大学。

COE/RES 国際経済セミナー, 2004 年 7 月 30 日-8 月 1 日, 一橋大学。

COE/RES 国際経済セミナー, 2005 年 11 月 26 日, 一橋大学。

COE/RES 国際経済セミナー, 2006 年 11 月 19 日, 一橋大学。

COE/RES 国際経済セミナー, 2007 年 11 月 17 日, 一橋大学。

グローバル COE Hi-Stat, 現代経済システム研究センター 国際経済セミナー, 2008 年 11 月 29 日-30 日, 一橋大学。

#### C. 受賞

日本国際経済学会小島清賞(研究奨励賞), 2007 年 10 月。

第 5 回日本学術振興会賞(『国際政治経済学へのゲーム理論的アプローチ』に対して), 2009 年 3 月。

第 5 回日本学士院学術奨励賞(『国際政治経済学へのゲーム理論的アプローチ』に対して), 2009 年 3 月。

### 6. 学内行政

---

#### (b) 学内委員会

学部教育専門委員(2004 年 4 月 - 2006 年 3 月)

### 7. 学外活動

---

#### (a) 他大学講師等

横浜国立大学経済学部 非常勤講師(2004 年)

慶應義塾大学商学部 非常勤講師(2004 年)

京都大学経済研究所附属経済分析研究部門 講師(客員教授)(2008 年 10 月 1 日 - 2009 年 3 月 31 日)

#### (b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

日本国際経済学会

American Economic Association

Econometric Society

International Economics and Finance Society

日仏先端科学(JFFoS)シンポジウム参加(2008 年 1 月, 2009 年 1 月)

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

---

内閣府「グローバル化改革に関する研究会」委員(2007年)

独立行政法人経済産業研究所(RIETI ファカルティフェロー)(2008年)